

# 昭和・平成そして新時代へ —今上天皇の「生前退位」を考える

ノンフィクション作家  
保坂正康

- \* 歴史の扉を開いたビデオメッセージ
- \* 今上天皇が「個人として」語った意味
- \* 王室制度が保障する主権在民
- \* 皇統を守るための戦争を迫られた昭和天皇
- \* 手段としての戦争を選択しない今上天皇の思い
- \* 昭和5〜6年に死んだ大日本帝国憲法
- \* 戦後憲法と旧皇室典範の併存が生む矛盾
- \* 終身在位が非人間的とはいかなる意味か
- \* 有識者会議に見る安倍政権のご都合主義
- \* 武家政権の英明に学ぶ



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

今日もたいへん暑くなりましたが、本日でこの会は一旦休会になります。秋までは皆さんとお別れでございます。

本日は、夏は歴史を考える時期でもございますので、2回目でございますが保阪先生に来ていただきました。昨年、今上天皇が退位のご意向をメッセージで示されるといふことがありまして、政治の面でもたいへんばたばたいたしましたが、昭和天皇、そして現在の天皇、それからこれから日本がどうなっていくかということでは、ある意味では象徴的な出来事でございますので、そういったことを含めてこの時代を振り返って将来を展望するという機会にしていたきたいと思います。それでは保阪先生、よろ

しくお願いいたします。（拍手）

**保阪** ご紹介いただきました保阪正康と申します。昭和14年生まれなので77歳ですが、戦後の教育を受けた世代——昭和21年4月が小学校入学でして、国民学校と当時は言いました。以来、いわゆる戦後民主主義の教育を受けてきたことになるんですが、その視点で昭和史とか、近代史を検証してきました。

**歴史の扉を開いたビデオメッセージ**

今日の話は天皇のあり方といえますか、今上天皇が昨年8月8日にビデオメッセージを發しましたけれども、そのビデオメッセージを通じて歴史的に何をいわんとしているのか、それはどういう意味を持つのか、そのことは私たちに